

広報

2

FEBRUARY

# かすや



2012年 No.614 <http://www.town.kasuya.fukuoka.jp/>

平成24年2月1日発行 編集/柏屋町総務部協働のまちづくり課 発行/柏屋町 福岡県糟屋郡柏屋町駕与丁一丁目1番1号 ☎938-2311

## 二十歳の誓い

### 飲酒運転は絶対にしません!

(成人式の記事は、P11に掲載しています。)



## 特集 飲酒運転根絶に向けて

(関連記事はP2~P5に掲載しています。)

# どうして大人は こんな簡単なことが守れないの？

## なぜ減らない飲酒運転

### ～ドライバーアンケートから要因を探る～

大人の身勝手な行動で、かけがえのない命を奪ってしまう飲酒運転。現在では、学生などの未成年者による飲酒運転根絶の活動も積極的に行われています。しかし、よく考えてください。なぜ子どもたちがこのようなことをしなければならぬのでしょうか。

ここでは、なぜ福岡県でこんなにも飲酒運転による事故が後を絶たないのかをアンケートから読み取っていきましょう。

福岡県警が平成23年4月に一般ドライバー約1200人を対象に、飲酒運転に関するアンケートを実施し、次のような結果が出ています。

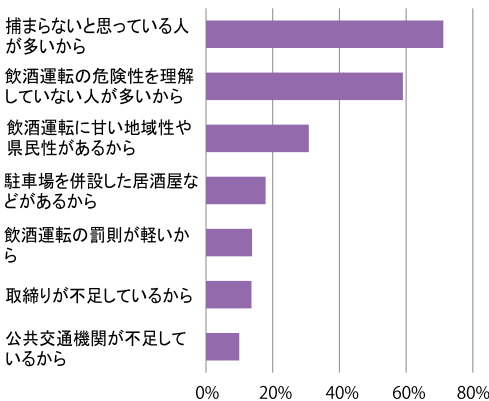
飲酒運転が減らない理由は、「捕まらない」と思っている人が多いから」という考えの回答者が全体の70%以上います。次いで「飲酒運転の危険性を理解していない人が多いから」という考えを持っている人が約60%でした。また、「飲酒運転に甘い地域性や県民性があるから」との意見も約30%と三番目に多く、警察による取締り不足や罰則が軽いという理由よりも、ドライバー自身の甘い認識が一番の原因であることが分かります。

また、過去に飲酒運転をしたことがある人が、217人と全体の18%を占めており、その理由が、「飲んだ量が少しなので大丈夫だ

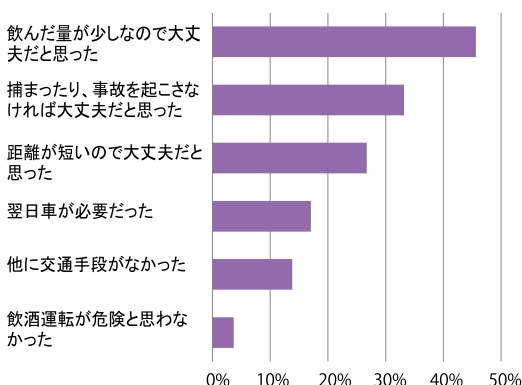
と思った」や「捕まったり、事故を起こさなければ大丈夫だと思った」という甘い認識によるものが目立ちます。

以上のことから飲酒運転の根絶は、厳罰化や取締り強化だけでは根本的な解決にはならないことが分かっています。ドライバー一人ひとりが飲酒運転は「絶対ダメだ」という意識をしっかりと持ちさえすれば、飲酒運転という犯罪はなくなるはずですが、もう一度飲酒運転について、よく考えてください。たった一度の、ほんのわずかな安易な行動があなたや家族の人生を狂わせてしまうのです。

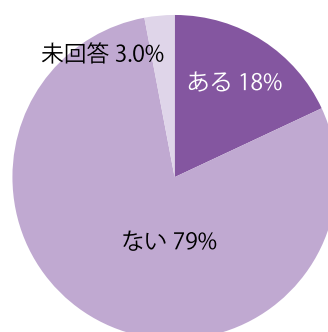
Q1 福岡県の飲酒運転事故が増えている理由は何だと思いますか。



Q3 なぜ飲酒運転をしたのですか。



Q2 過去に飲酒運転をしたことがありますか。





# あなたがいなくなつて寂しい

平成23年2月9日、粕屋町内で飲酒による無謀運転により、2人の高校生の尊い命が奪われました。今回は犠牲者のお一人である山本寛大くん之母、美也子さんに本誌の趣旨をご理解いただき、お話を伺うことができました。

## 小さい頃から命を、友達を大事にする子でした。

太陽が最も長く顔を出す夏の季節に寛大くんは生まれました。当時は水不足による断水もあり、とても苦労しましたが、元気な産声をあげる寛大くんは両親はたくさん愛情を注ぎます。

小さい頃からとても元気に友達とよく遊んでいた寛大くんは、虫が大好きで川や田んぼに出かけては、いつもポケットに虫をいれて帰っていました。「我が家でたくさん虫をサナギの頃から育て、セミやカブトムシなどの成長を家族でみてきました。その過程で命の大切さを学んだと思います。」と母親の美也子さんは語ります。小さい頃から命の大切さを知り、そして友達の大切さを知っていた寛大くんは、家族の自慢の子どもでした。



友達がたくさんいることが自慢だった中学生の頃の寛大くん



どうして飲酒運転がなくなるのかと訴える山本美也子さん

## 夢は人からありがとうと言われる仕事。

周りの人をとっても大切にする寛大くんの夢は、農業でした。「狭い土地でもたくさん野菜ができるようなことをしたい。」これは寛大くんの人を想う気持ちの表れではないでしょうか。美也子さんも、寛大くんが技術を身につけたら、日本だけでなく世界中の人々の役に立てるように、人から「いつもありがとう」と言われるような人になってほしいと小さい頃からずっと想い続けていたそうです。

即死と言われても何があったのか分からなかった。

事故の知らせを聞いたとき、当時は何が起きたのか、どうなったのか、今ではよく覚えていないくらい動揺したそうです。

美也子さんは、「息子の即死がどういう状況なのか、顔を見るのが怖かった。」と言います。そしていざ病院へ行くと、少し笑っているような寛大くんの顔を見て「本当に何があったの」と寛大くんに話しかけていたそうです。

その後、山本さんの生活は180度変わります。美也子さんは仕事を辞め、マスコミの取材にも応じ、多忙を極めながらも、飲酒運転撲滅活動を積極的に行うことになりました。「飲酒運転撲滅活動は命を守る活動です。本当に大人が子どもたちの命を責任をもって守らなければいけません。」と美也子さんは話します。

飲酒運転をしない人にこそたくさん声をあげてほしい。

美也子さんは「飲酒運転撲滅は、する人よりもしない人にこそたくさん声をあげていただくことが大事だと思っています。」と語ります。飲酒運転をしない人こそが周りへ声をかけることにより、次第に飲酒運転がなくなり、飲酒運転の根絶へ向かうことができると考えているからです。

このようにつらい経験をする人がもういなくなるように、本当に、本当に全ての人に分かってもらえるまで、山本さんたちは訴え続けます。私たちは、その声に耳を傾け、もう一度、飲酒運転撲滅について考え、行動しなければなりません。

※この記事は山本さんへの取材をもとに起稿構成しています。



寛大くんはいつまでもみんなの心の中に



山本美也子さんが代表を務める「NPO 法人はあとスペース」は、現在ドライバーのマナーアップ啓発を中心に活動しています。